



内務省特報



◎大政黨贊會中央協力會

◇劈頭近衛首相曰く、大政黨贊運動の目的は、未曾有の非常時局に際會し一億國民各々が皇國臣民たるの自覺に立ち全力をあげて奮起し萬邦無比の臣道實踐體制を確立するのであつて、わが國においては高度國防國家體制は、かかる力強き臣道實踐體制の確立によつてのみはじめて實現出来るのである、今や皇國をめぐる世界の情勢はいよ／＼緊迫を加へ獨英戰の將來は擴大の一途を辿りつつあり、何時全世界を動亂の巻たらしむるやもはからざる形勢にありといふべきである。かかる非常時局を突破し上聖慮を安んじ奉らんがためには一億臣民ごとごとくが各々その地域職域において眞に臣道實踐に挺身し進んで國難にあたるの覺悟がなければならぬのである。皇國の前途を不動の根基に確保し以て天壤無窮の皇運を扶翼し奉らんがために、われ／＼臣民は今や一齊奮起致すべき秋である。

◇大政黨贊會はこの全國民運動を推進せしむるために生れ出でた

るものであつて、まことに重大なる使命を有するものといふべきである。先般本會は大政黨贊運動の趣旨徹底と大政黨贊會の健全なる機能發揮を容易ならしむるとともに政府との關係を一層緊密ならしめ、今後ますますその實踐力の強化をはからんがために本部の改組を行つたがもとより只今申上げた如き大政黨贊會本來の趣旨性格および運動方法には寸毫の變改もないのである。今日の難局に對處しいよ／＼本會は健全活潑なる運動を急速に展開することを切望してやまない。

◇申上ぐるまでもなく、本會議は贊運動において極めて重要な下情上通の役割を果すとともに、國民相互に勵み合ひ、よりよき臣道實踐の方途を發見せんとするものであるから、この運用ならびに成果の如何は實に今後本運動の使命達成の上に至大の關係を有するものと信する、各位におかれてはこの一大國民家族會議の本旨を諒解せられ十分議を盡されて協力戮力國運隆興の礎石とならんことを切に冀求する次第である。

大政翼賛會中央協力會の顛末左の如し。

大政翼賛會第一回中央協力會議の第一日、十六日の總會は第一部（國體觀念の徹底、大政翼賛運動の強化、興亞國民運動の展開）

第二部（國民組織）第三部（行政機構の刷新ならびに運用）の代表發言を終り、第四部（經濟關係）の一部を残して午後六時五分散會、帝國ホテルにおける末次議長の招待晚餐會に臨んだ、同日の會議を一貫する特徴は、中央本部の改組如何に拘らず地方から盛上る力が議案を通じて力強く表示された點にあり、なかんづく翼賛運動の強化、國民組織の諸問題に關し積極的な意見が開陳され、

一、推選員の横斷的連繫を結成せよ

一、町内會、部落會を實質的に翼賛會の下部組織として活用せよ

一、道府縣支部に副支部長を置きこれを民間から選抜して翼賛會の官僚化を避けよ

一、大日本興亞同盟の地方支部は翼賛會地方支部を以てせよ

一、青壯年團組織の結成強化により政治力を結集せよ

一、國民の間から盛上る政治力を生かすため、議會と表裏一體の關係に立ち翼賛議員團を結成せよ

一、各種團體（産業報國會、農業報國會、商業報國會、その他職域團體）を翼賛會の下に統合せよ

内務省特報

等の注目すべき要望があつた、又興亞國民運動展開の諸問題は、東亞共榮圈確立の觀點から確固たる政府の根本方針闡明を要望し官界新體制確立を強く叫び、經濟關係では綜合的計畫經濟の遂行と物價問題が論議の中心となつた。

第二日、第三日と引續き審議を行ひ十九日懇談會を開きて有終の實を收めた。

大政翼賛會中央協會閉會に於て近衛首相は曰く、

「開會以來連日に互り誠意ある御意見の發表を拜聽することを得、まことに欣快に堪へない。各位の聲は全國の地域、職域における當面の重要問題に關する點の叫びである。しかも提案せられた議論せられた議題はいづれも高度國防國家體制確立のためにして直に實行し得るものはこれを實行に移し、さらに研究を要するものは政府翼賛會それらの機關において十分研究を加へて本會議所期の目的を達成するやう處理致したいと思ふ。

◇會議は本日をして終了したが各位においては會議の席上のみならず、民情にして本運動又は當局の施策に反映せしむる要ありと思料致されることは常時においても率直に本會機關を通じて上通せられ、かつ國民に對してはよく國家の要求するところを徹底せられ、相携へて大政翼賛運動に御協力あらんことを切に

希望してやまない次第である。

末次議長の演説曰く

「總會委員會を通じ各員の發言は眞摯懇誠愛國の至情に燃え、ことに實地に即し蘊蓄を傾けられた討議研究に對しては、互に啓發裨益するところ甚大なものがあつたと信ずる。翼賛會本部はもとより政府においても輿論の眞の聲を親しく聞くことを得て施政の上に資するところすくなからざるものがあつたことを斷言し得るのである。

かくして家族會議としての眞面目を發揮し得たことはおたがひにかへりみて欣快これにすぎたるはないと存する次第である

今回の會議においてことに聴取せらるることは提案、發言、討議いづれも極めて建設的であつたことであつて、これを前回の臨時會議と比較するときそこに一段の進歩をとげ政府と表裏一體の實をあげる方向に明かに一步を進め得たと確信するのである。それについては政府も隱意なき協力を對しここに感謝の意を表しななければならぬと思ふ。ことに心強く感じたことはこの會議を通じて大東亞共榮圈確立のために萬難を排して邁進せねばならぬといふ國民の決意のほどが明白に現はれたこと、なかんづくその自然圈確立の建前はどこまでもこれを堅持しこれを實現せねばならぬと

いふ覺悟の示されたことである。

統裁された議題の處理についてはすでにしばしば表明した通りさらに運営委員會の檢討を煩はし上通下達ともに遺憾なきを期したいと思ふ。

會議を一見したる人々は必ずや黨争を超越し舉國一體時艱克服に邁進せんとする忠誠心の躍如たる光景に打たれないものはあるまい、ここに眞實の政治性が明かに盛り上つてゐる事實を觀取し得ると信するのである。

會議員各位におかれてはこの議場に横溢せる眞劍なる國民の聲をあるひは職域を通じあるひは地域において洩れなく一億同胞に傳達されんことを要望する、政府もまたこの會議の成果を素直に取入れてこれを施政の上に生かざるやう最善を盡さるることはわれらの信じて疑はぬ、翼賛會の成否は一にかかつてこの點にあるといふも過言でないことは總裁のかねての聲明に徴しても疑ひをいれないところである。時局の緊迫せる實に一觸即發の轉機にあることは明白でこの時局を正しく認識し、皇國日本の歴史的使命に鑑み、同胞相戒め相勵まし、この上にも萬一の危機に處して天業恢弘の實をあげるに萬遺憾なきを期したい」

◎道、各府縣の市名左の如し。

(昭和十六年六月二十日現在)

北海道 札幌市、旭川市、小樽市、函館市、室蘭市、釧路市、帯

廣市

東京府 東京市、八王子市、立川市

京都府 京都市、福知山市、舞鶴市、東舞鶴市

大阪府 大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、布施市、池田市、吹

田市

神奈川縣 横濱市、横須賀市、川崎市、平塚市、鎌倉市、藤澤市

小田原市

兵庫縣 神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、飾

磨市、蘆屋市、伊丹市

長崎縣 長崎市、佐世保市、島原市、諫早市

新潟縣 新潟市、長岡市、高田市、三條市、柏崎市

埼玉縣 川越市、熊谷市、川口市、浦和市、大宮市

群馬縣 前橋市、高崎市、桐生市、伊勢崎市

千葉縣 千葉市、銚子市、市川市、船橋市、館山市

茨城縣 水戸市、日立市、土浦市

栃木縣 宇都宮市、足利市、栃木市

奈良縣 奈良市

三重縣 津市、四日市市、宇治山田市、松阪市、桑名市

愛知縣 名古屋市、豊橋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市

静岡縣 静岡市、濱松市、沼津市、清水市、熱田市、三島市

山梨縣 甲府市

滋賀縣 大津市、彦根市

岐阜縣 岐阜市、大垣市、高山市、多治見市、

長野縣 長野市、松本市、上田市、岡谷市、飯田市

宮城縣 仙台市、石巻市、

福島縣 福島市、若松市、郡山市、平市

岩手縣 盛岡市、釜石市、宮古市

青森縣 弘前市、青森市、八戸市

山形縣 山形市、米澤市、鶴岡市、酒田市

秋田縣 秋田市、能代市

福井縣 福井市、敦賀市

石川縣 金澤市、七尾市、小松市

富山縣 富山市、高岡市

鳥取縣 鳥取市、米子市

島根縣 松江市、濱田市

岡山縣 岡山市、倉敷市、津山市、玉野市

廣島縣 廣島市、吳市、尾道市、福山市、三原市

山口縣 下關市、宇部市、山口市、萩市、徳山市、防府市、下松

市、岩國市、小野田市

和歌山縣 和歌山市、新宮市、海南市

徳島縣 徳島市

香川縣 高松市、丸龜市

愛媛縣 松山市、今治市、宇和島市、八幡濱市、新居濱市、西條

市

高知縣 高知市

福岡縣 福岡市、若松市、八幡市、戸畑市、久留米市、大牟田市

小倉市、門司市、直方市、飯塚市

大分縣 別府市、中津市、佐伯市、日田市

佐賀縣 佐賀市、唐津市、

熊本縣 熊本市、八代市

宮崎縣 宮崎市、都城市、延岡市

鹿児島縣 鹿児島市、川内市、鹿屋市

沖繩縣 那覇市、首里市

